



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年1月31日

上場会社名 株式会社 丸順 上場取引所 名
 コード番号 3422 URL http://www.marujun.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 今川 喜章
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 管理本部長 (氏名) 青山 秀美 (TEL) 0584-48-2832
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	42,883	△15.5	1,568	98.5	1,186	776.5	1,702	—
28年3月期第3四半期	50,772	8.1	790	—	135	—	△2,644	—

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 △320百万円(—%) 28年3月期第3四半期 △3,469百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	194.25	—
28年3月期第3四半期	△301.72	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	45,106	5,496	5.3
28年3月期	53,241	5,956	4.2

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 2,410百万円 28年3月期 2,253百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	56,000	△16.9	1,600	△14.7	700	△18.5	400	—	45.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期3Q	9,771,000株	28年3月期	9,771,000株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	1,004,992株	28年3月期	1,004,922株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期3Q	8,766,065株	28年3月期3Q	8,766,078株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事項等について	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国では、原油安に歯止めがかかるなか、輸出や設備投資が緩やかに持ち直し、景気回復が続いております。欧州では、良好な雇用及び所得環境を背景とした個人消費の堅調さにより緩やかな成長ペースを維持しております。アジアでは、中国で住宅販売や公共部門の投資拡大により景気の持ち直しがみられ、日本でも米国や中国向けなどの輸出の増加及び建設設備投資の増加等により景気持ち直しを維持しております。

当社グループが属する自動車業界においては、米国では、景気回復や大幅な値引きが行われていること等により、堅調な需要となっております。タイでは、輸出の減速が足を引っ張る状況となっているものの、安定的な国内販売により底堅く推移しております。中国では、昨年度から実施している小型車の自動車取得税半減措置の終了前の駆け込み需要によって需要が増加しており、日本では、全般的な輸出環境の悪化及び軽自動車の販売不振が根深く影響しております。

このような状況のもと、当社グループは厳しい収益状況からの早期脱却と、持続的な企業成長に向けた「丸順構造改革プラン」を継続して推進しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は42,883百万円（前年同四半期比15.5%減）、営業利益は1,568百万円（前年同四半期比98.5%増）、経常利益は1,186百万円（前年同四半期比776.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は特別利益等の計上により1,702百万円（前年同四半期は2,644百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

(丸順)

丸順においては、主要客先向け自動車部品の生産量の減少等により、売上高は減少いたしました。また、「丸順構造改革プラン」の着実な推進による製造原価の低減及び為替差益等の営業外収益の増加により、利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は9,447百万円（前年同四半期比5.3%減）、経常利益は964百万円（前年同四半期比102.0%増）となりました。

(タイ)

タイにおいては、エンジニアリング事業における専用設備の販売拡大等により売上高は増加し、購入費及び経費等の製造原価低減の取組みにより損失は減少いたしました。

以上の結果、売上高は6,447百万円（前年同四半期比1.2%増）、経常損失は103百万円（前年同四半期は811百万円の経常損失）となりました。

(広州)

広州においては、主要客先の増産等の影響はあったものの、エンジニアリング事業における専用設備の売上減少により売上高は減少いたしました。また、労務費及び経費等の固定費削減の取組みにより利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は12,601百万円（前年同四半期比15.6%減）、経常利益は857百万円（前年同四半期は27百万円の経常損失）となりました。

(武漢)

武漢においては、主要客先の増産影響により売上高が増加したことにより、償却費及び労務費等の固定費負担が相対的に減少し、利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は4,917百万円（前年同四半期比24.0%増）、経常利益は7百万円（前年同四半期は35百万円の経常損失）となりました。

(インディアナ)

インディアナにおいては、事業撤退に伴う事業活動の縮小の影響により売上高、利益共に減少いたしました。

以上の結果、売上高は9,804百万円（前年同四半期比35.8%減）、経常損失は220百万円（前年同四半期は967百万円の経常利益）となりました。

(四輪販売)

四輪販売においては、新車販売、中古車販売及びサービス部門の売上が増加したことにより売上高、利益共に増加いたしました。

以上の結果、売上高は2,622百万円（前年同四半期比11.9%増）、経常利益は49百万円（前年同四半期は2百万円の経常損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第3四半期連結会計期間末における資産総額は、45,106百万円となり、前連結会計年度末と比較し、8,134百万円の減少となりました。これは主に、建物及び構築物が1,489百万円減少、機械装置及び運搬具が2,688百万円減少、工具、器具及び備品が1,761百万円減少、建設仮勘定が955百万円減少したことが要因であります。

負債総額は39,610百万円となり、前連結会計年度末と比較し、7,674百万円の減少となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が1,462百万円減少、短期借入金が3,893百万円減少、リース債務が950百万円減少したことが要因であります。

純資産は5,496百万円となり、前連結会計年度末と比較し、460百万円の減少となりました。これは主に、利益剰余金が1,702百万円増加、為替換算調整勘定が1,599百万円減少、非支配株主持分が616百万円減少したことが要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年5月13日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象について

当社グループは、平成27年3月期において、重要な営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上しており、長期借入金の返済資金の確保が懸念されている状況が生じていました。さらに、前連結会計年度において、多額の特別損失を計上しており、個別財務諸表では債務超過となりました。当第3四半期連結会計期間の末日においても個別財務諸表における債務超過が継続しているなど財務基盤が安定しておらず、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

これらの状況に対処すべく、前連結会計年度において策定した「丸順構造改革プラン」に従い、当第3四半期連結累計期間においても継続して経営資源の集中による事業ポートフォリオの変革、資産売却、要員削減及び工場集約によるボトム体質の構築を推進し、不採算事業からの撤退、固定費の削減を実施しております。この結果、前連結会計年度に引き続き、当第3四半期連結累計期間においても営業利益及び経常利益は共に黒字を継続しており、親会社株主に帰属する四半期純利益も黒字となっております。

また、将来の成長に向けて精密部品事業、エンジニアリング事業の拡販及び研究開発活動の拡充を進めると同時に、「丸順構造改革プラン」の取組みによる収益の改善によって個別財務諸表における債務超過を解消するという方向性について、取引先及び取引先金融機関からの理解を得ております。

資金面においては、事業の継続及び「丸順構造改革プラン」の実施に必要な資金を確保するために取引先金融機関に対して継続的な支援を要請し、長期及び短期借入金の返済資金について、当座貸越枠の増額や返済期日を延長することで同意をいただいております。

これらの諸施策の実施により、収益基盤の安定化を図り、取引先金融機関の継続的支援のもと、資金不足となるリスクは回避し、財務基盤の安定化をはかることもできており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

当第3四半期連結累計期間
(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,922	6,366
受取手形及び売掛金	8,510	9,578
商品及び製品	622	534
仕掛品	1,961	1,507
原材料及び貯蔵品	1,065	655
その他	2,070	1,293
貸倒引当金	△91	—
流動資産合計	20,061	19,936
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,852	6,362
機械装置及び運搬具(純額)	8,014	5,325
工具、器具及び備品(純額)	7,634	5,872
土地	1,637	1,487
リース資産(純額)	2,446	1,661
建設仮勘定	4,297	3,342
有形固定資産合計	31,883	24,051
無形固定資産	208	185
投資その他の資産		
その他	1,105	950
貸倒引当金	△17	△17
投資その他の資産合計	1,088	933
固定資産合計	33,180	25,170
資産合計	53,241	45,106

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,133	5,671
短期借入金	21,888	17,995
リース債務	984	586
未払法人税等	131	163
賞与引当金	52	181
その他	5,310	3,700
流動負債合計	35,501	28,299
固定負債		
長期借入金	8,244	8,532
リース債務	1,365	812
退職給付に係る負債	914	926
資産除去債務	89	137
その他	1,167	901
固定負債合計	11,783	11,310
負債合計	47,284	39,610
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,037	1,037
資本剰余金	935	935
利益剰余金	△1,359	343
自己株式	△626	△626
株主資本合計	△12	1,690
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	54	84
為替換算調整勘定	2,408	809
退職給付に係る調整累計額	△197	△174
その他の包括利益累計額合計	2,265	720
非支配株主持分	3,703	3,086
純資産合計	5,956	5,496
負債純資産合計	53,241	45,106

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	50,772	42,883
売上原価	46,221	37,971
売上総利益	4,550	4,912
販売費及び一般管理費	3,760	3,344
営業利益	790	1,568
営業外収益		
受取利息	7	9
受取配当金	9	4
為替差益	—	127
助成金収入	0	77
受取出向料	32	—
その他	48	39
営業外収益合計	100	258
営業外費用		
支払利息	643	541
為替差損	72	—
その他	39	98
営業外費用合計	754	640
経常利益	135	1,186
特別利益		
固定資産売却益	26	818
投資有価証券売却益	758	—
その他	1	—
特別利益合計	786	818
特別損失		
事業構造改善費用	671	—
固定資産売却損	3	—
減損損失	2,842	1
投資有価証券評価損	20	2
特別損失合計	3,538	3
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	△2,615	2,001
法人税等	129	127
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,744	1,874
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支 配株主に帰属する四半期純損失(△)	△100	171
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会 社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,644	1,702

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,744	1,874
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△471	30
為替換算調整勘定	△319	△2,248
退職給付に係る調整額	65	23
その他の包括利益合計	△725	△2,194
四半期包括利益	△3,469	△320
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,292	156
非支配株主に係る四半期包括利益	△177	△477

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						合計
	丸順	タイ	広州	武漢	インディアナ	四輪販売	
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	8,753	6,304	14,314	3,792	15,266	2,341	50,772
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,217	69	614	173	0	3	2,078
計	9,971	6,374	14,928	3,965	15,266	2,344	52,851
セグメント利益又は損失(△)	477	△811	△27	△35	967	△2	569

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	569
セグメント間取引消去	△69
子会社配当金	△363
その他の調整額	0
四半期連結損益計算書の経常利益	135

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「インディアナ」セグメントにおいて、撤退に伴い売却が見込まれる機械装置、建物及び土地等について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において2,842百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						合計
	丸順	タイ	広州	武漢	インディ アナ	四輪販売	
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	8,528	6,172	11,067	4,689	9,804	2,621	42,883
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	919	275	1,533	228	—	1	2,957
計	9,447	6,447	12,601	4,917	9,804	2,622	45,841
セグメント利益又は損失(△)	964	△103	857	7	△220	49	1,555

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,555
セグメント間取引消去	△43
子会社配当金	△326
その他の調整額	0
四半期連結損益計算書の経常利益	1,186

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。